

問1 私たちの生活に不可欠な水道やガスなどの供給サービスにおいて、その価格が国民生活に与える影響が非常に大きいため、国や地方公共団体が決定や改定に関与している価格を何と呼びますか。 (2021年 島根県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 均衡価格 | 2. 公共料金 | 3. 卸売価格 | 4. 独占価格 |
|---------|---------|---------|---------|

問2 急激な円高が進行した際、日本の産業や生活に及ぼす影響について述べた文として、最も適切なものを選びなさい。 (2018年 福島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 海外に拠点を置く日本企業が現地で得た利益を日本円に換算した際、その金額は円安時よりも増加する。 | 2. 日本円の価値が相対的に低くなることで、日本を訪れる外国人観光客にとっての旅行費用が安くなり、インバウンド需要が増大する。 | 3. 輸出製品の価格競争力が低下するため、自動車産業などの輸出に依存する企業にとっては収益が悪化する要因となる。 | 4. 海外から輸入される原油や食料品の価格が上昇するため、国内の物価が上昇し家計を圧迫する要因となる。 |
|--|---|--|---|

問3 クレジットカードを用いた決済では、その場で代金を直接支払わないため、消費者はどのような点に最も注意して利用する必要がありますか。その説明として最も適切なものを選びなさい。 (2021年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|--|-----------------------------|
| 1. 手元の現金をすべて使い切った後に、不足分を補うために利用すること | 2. 将来の臨時収入を前提として、限度額まで最大限に利用すること | 3. 現金の支出を伴わないため、代金の支払い義務がないと理解して利用すること | 4. 自分の支払い能力の範囲内で、計画的に利用すること |
|-------------------------------------|----------------------------------|--|-----------------------------|

問4 価格を縦軸、数量を横軸にとった需要供給曲線の分析において、右下がりの需要曲線と右上がりの供給曲線が交差する地点は「均衡価格」と呼ばれます。もし、実際の商品の価格がこの均衡価格よりも低い水準に設定された場合、市場ではどのような現象が起こると考えられますか。 (2026年 岡山県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 価格が低いために需要曲線自体が右側に移動し、供給曲線と交差しなくなる | 2. 買い手の求める数量が売り手の供給したい数量を上回り、品不足が生じる | 3. 売り手の供給したい数量が買い手の求める数量を上回り、売れ残りが生じる | 4. 需要量と供給量が一致しているため、市場での取引が最も安定して行われる |
|---------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|

問5 ある野菜の年間を通じた流通統計において、夏場の7月から8月にかけては月別の取扱数量が最大の約50百トンに達しますが、この時期の平均価格は約250円と年間で最も安くなっています。一方、取扱数量が少ない1月から3月にかけては、平均価格が500円前後の高い水準で推移しています。このような価格変動が起こる理由として、最も適切なものを選択してください。 (2019年 高知県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 冬場は生産コストが低く抑えられるため、生産者が市場への供給量を意図的に減らすことで、市場価格を高く維持しようとするから。 | 2. 夏場は消費者の需要が年間の最大となるため、取扱数量の増加に合わせて市場価格も比例して上昇していく傾向があるから。 | 3. 収穫量が増えて市場への供給量が多くなる時期には、買い手を探すために価格が下がり、供給が少なくなる時期には希少性が増して価格が上がるから。 | 4. 農産物の市場価格は、政府によって1月～3月は高く、7月～8月は安くなるように固定されており、取扱数量の増減は価格に関係しないから。 |
|---|---|---|--|

問6 環太平洋地域の経済連携を目的としたCPTPPの内容について、その特徴や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 南米諸国による経済統合を目指し、域外の国に対しては共通の関税を設定する関税同盟としての役割を持つ。 | 2. 参加国間での関税を原則として撤廃し、自由な貿易や投資の環境を整えることで、地域全体の経済成長を図る。 | 3. アメリカ・カナダ・メキシコの3か国間で、北米大陸における経済的な障壁をなくし、産業の競争力を高める。 | 4. 東南アジア諸国の経済発展と政治的安定を目的とし、地域内の安全保障協力や文化交流を主導する。 |
|--|---|---|--|

問7 市場経済において、企業が価格や品質で競い合うことは消費者の利益につながります。しかし、一部の企業が市場を独占したり、複数の企業が話し合っ

- | | | | |
|-----------|-----------------|----------|----------|
| 1. 消費者基本法 | 2. 製造物責任法 (PL法) | 3. 労働基準法 | 4. 独占禁止法 |
|-----------|-----------------|----------|----------|

問8 日本の市場経済において、一部の大企業が市場を独占することで価格が高止まりすることを防ぎ、企業間の公正かつ自由な競争を促すことを目的として制定された法律と、その運用を専門的に担当する行政機関の名称の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------|-----------------------|------------------|------------------|
| 1. 消費者契約法と国民生活センター | 2. 製造物責任法 (PL法) と消費者庁 | 3. 労働基準法と労働基準監督署 | 4. 独占禁止法と公正取引委員会 |
|--------------------|-----------------------|------------------|------------------|

問9 生産者から消費者に商品が届く過程において、卸売業者が担っている経済的な役割として、最も適切な説明はどれか。 (2015年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 商品の需要と供給のバランスを調整するために、政府の指示を受けて生産量を管理する役割 | 2. 原材料を加工して新たな製品を作り出し、付加価値を高めてから市場に送り出す役割 | 3. 全国の生産者から多種多様な商品を集め、それを各地の小売業者へ効率よく分配する役割 | 4. 直接消費者に接して商品の魅力を伝え、個々の消費者の注文に応じて商品を販売する役割 |
|--|---|---|---|

問10 日本円とアメリカドルの交換において、為替相場が1ドル=100円から1ドル=150円に変動した場合、この現象の名称と、日本の輸出企業に与える一般的な影響の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 円高になり、海外での日本製品の価格が上がるため、輸出には不利に働く。 | 2. 円高になり、海外での日本製品の価格が下がるため、輸出には有利に働く。 | 3. 円安になり、海外での日本製品の価格が下がるため、輸出には有利に働く。 | 4. 円安になり、海外での日本製品の価格が上がるため、輸出には不利に働く。 |
|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|

問11 2007年から2016年までの日本、アメリカ、韓国、中国の4か国の実質経済成長率をまとめた統計について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2019年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 韓国は、対象期間のすべての年において、日本やアメリカよりも低い成長率で推移した。 | 2. アメリカは、2007年から2016年のすべての年において、中国を上回る実質経済成長率を記録し続けている。 | 3. 日本は、2008年から2009年にかけての世界的な景気後退の影響を最も受けなかったため、この期間もマイナス成長には陥らなかった。 | 4. 中国は、対象期間のすべての年において他国よりも高い成長率を維持したが、2007年の成長率をピークとして以降は低下傾向にある。 |
|---|---|---|---|